

令和3年度前期「授業改善メモ」のまとめ

共通教育センターでは、授業をより良く改善するため、前後期末に学生による授業アンケートを実施している。また、授業担当教員からは、その結果を踏まえた授業改善メモを提出してもらい、内容をとりまとめ、ホームページ上に公開している。この授業改善メモには、教育改善のための有益なコメントや要望等が多数含まれている。

以下、令和3年度前期の授業に対して提出された授業改善メモを、1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間、2. 受講生が実感する学習成果、3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み、4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点、5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）等に分類し紹介する（同様の内容に対しては、代表的なもののみ残した）。共通教育センター及び部門内で検討すべき内容の抽出の為に、全記録内容を別途 manaba の「共通教育 FD」にて提示する。

初年次セミナーI

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・グループプレゼンテーションのスライドの編集履歴を確認すると、「頑張りすぎている学生」、「手を抜いている学生」が存在した。グループプレゼンテーションである以上、ある程度仕方ないことでもあるが、この不公平感は改善が必要である。
- ・学生間の授業への取り組み意識の違いが、学習時間の多寡に大なり小なり反映されていると思います。
- ・全くしなかったと答えた学生、4時間以上と答えた学生がそれぞれ数%づつおり、一部の学生にグループワークにおいての負担がかかっているのかもしれない。
- ・毎週進捗報告を提出してもらったが、項目の見直しを実施や毎週の進捗の目安との差異などをしっかり確認してもらってデザインを検討する。
- ・グループワークでの取り組みにおいて負担ができるだけ均等になるように分担させる。
- ・予習復習といった形の決まったものではなく、常に考えることを意識させたい。

2. 受講生が実感する学習成果

- ・グループプレゼンテーションが最後に課せられていたが、グループで一つの事柄を成し遂げた達成感が感じられたためと考えられる。
- ・自身の経験談等を織り交ぜていきたい。
- ・中間発表は、個別に実施したり、オンデマンドで相互コメントの期間を設けたことで、改善点が明確になったと考えられる。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・「対面」で実施する意味と「15分の制約」の両立をとる授業デザインに最も苦労した。一つ一つのコンテンツは非常に重要である一方で、昨年度の実績・成果を踏まえると遠隔でも十分に実施可能である。対面で学生同士のディスカッション、相互作用を生み出すために、前半はワークショップ形式の授業にしたり、manabaでの学生間の情報共有などを組み合わせて実施した。
- ・課題ごとに、何を目標しているのかをもっと明確にしたい。
- ・(自主的な考察・取り組みを)促したかどうかの問題なのではなく、どのような教育的効果を引き出したかが重要ではないだろうか。
- ・(自主的な考察・取り組みの促しを)感じなかった1名程度の学生には、TAの配備等も含めて、個別対応を強化したい。
- ・授業開始時に、お題を提示し、各自が話をするアイスブレイクを毎回行った。グループワークの活性化と、自主的に取り組む姿勢が養われたように感じる。
- ・できるだけグループ、ペア活動を入れていきたい。
- ・役割分担を細かく指示したことは、概ね好評だったようなので、今後も続けたい。
- ・毎回の講義時に「本当に大切なこと」を明示しているが、それを続けたい。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・「グループ活動が楽しかった」という意見が多い一方、「グループ内でしっかりやっている人とサボっている人の評価が変わらないのはどうかと思った」という意見もあった。
- ・中間プレゼンから最終プレゼンまでの時間が短いという声がいくつかあったので、スケジュール調整する必要がある
- ・事前学習と事後学習はmanabaでまとめ、いつでも見れるようにする。
- ・グループワークのテーマごとに相談方法について対面時に吟味し、応答し合う時間差を許容しうる前提でmanabaのプロジェクト機能を活用できないものか。
- ・講義ではSNSを利用した学生間の連絡手段を確保し、定められた手順にそって授業進行を行った。SNSの活用状況確認と課題をデータとして所持する工夫を伝える対応が考えられた。
- ・中間発表を個別に実施するなどの対応をとった。「この期間でいかに仕上げるのか？」と言う視点も持ち合わせてもらえるような授業デザインを心がけたい。
- ・授業時間の延長は、学生の発表が長引いてのものであった。この可能性については、事前に伝えていたが、対応が難しい面がある。

5. 授業一般に関するもの(授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等)

- ・一部の学生が無気力気味になっている点が気になります。学部の先生方との連携の必要性を感じております。
- ・最初の数回の授業は追加で説明しておくべき内容が多くあった。

- ・初年次教育に携わるということこそ共通教育センター教員が新たに身につけるべき専門性なのだと理念を、共通教育センター教員全員で共有しなければならないのではないだろうか。初年次教育のプロとなることを大前提として、初年次セミナーが達成すべきことを精緻に議論し、全員で知恵を出し合い、作業を進める必要があると感じられる。
- ・授業の成績分布において、頑張っている学生にもう少し良い成績を与えたかった。学生が積極的に取り組み、学生の力がつけばつくほど、上記のジレンマに陥ることになると思う。
- ・初年次セミナーでのことばの学び（読み・書き、情報管理上の倫理など）や多読課題は、外国語教育（英語）での学びや取組と共通する点が少なくないため、相乗効果があり、良いと思います。
- ・授業内容は WG の先生方のおかげで毎年良いものになっていると感じる。動画がわかりやすく良い。グループワークが多いからか履修態度も問題はない。ループリックに沿った評価と学位の質保証で行われる秀が 20%以下という規制が合わず、評価に苦労した。
- ・最初の方の授業回で、学生に manaba のコレクションから教員へ連絡することを必須課題としたことで、学生から連絡をとりやすい環境づくりができたように思う。
- ・今後も、学生間のコミュニケーションの機会を確保したい。
- ・他グループとの交流を希望する意見がアンケートであったが、SNS 上でそのような場を設ける対応も考えられた。
- ・初年次セミナーの目的を強く意識しながら教材に手を加えたり、教育内容の増減を図っている。この独自の取り組みが初年次セミナーの範疇を逸脱しないよう、WG には適宜相談するようにしている。
- ・個人の事前学習を発表する場を設けるなどして学習したことが結果となって現れる時間を作ることも必要かもしれない。
- ・休んだ学生には、できるだけ連絡をとって、ずるずると休みが続かないよう配慮したい。

大学と地域

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・取り上げている課題を掘り下げる取り組みができていない模様。
- ・平均よりもかなり多くの時間を学習に当てたとの集計結果となっている。本年度は初年次セミナー1にて早期にレポートの書き方が教えられており、そのスキルの実践の場として「大学と地域」を位置付けたことの結果であるように思われる。
- ・全くしなかった、30分未満という学生が全体の1/4いたが、オンデマンド授業のため、授業時間と授業時間外学習の区切りがつけにくいということも影響していると考えられる。
- ・オンデマンド授業に関してアンケートを取る際に、どこまでが授業時間かを明確にする必要がある。
- ・毎週提示している課題作文の分量や質問事項を見直す必要がある。

- ・「地域」に魅力を感じることができる授業内容を提供する必要がある。

2. 受講生が実感する学習成果

- ・成果が得られなかったと答えた学生が2割近くに達した。授業外学習時間と関連があるかもしれない。
- ・平均とほぼ同じ結果となっている。本年度の「大学と地域」は、manabaへの負荷を考慮した結果、原則としてリアルタイム Zoom 授業は否定されており、なかなか工夫を加えることが難しかった（自身はリアルタイム授業で個性が発揮できていると思っている）。
- ・多くは学習成果を実感できたものと思われるものの不満に思う学生も11%いることから、初期段階で本講義を受講する意義など、丁寧に伝える必要があると思われる。
- ・学習成果を実感させる取り組みを考えたい。
- ・思考を深めるだけでなく、実地体験も取り込んだ方が良いという意見がある。
- ・全体で提供される教材以外に、担当者独自に作成したメモ等を配布して、授業内容の背景も紹介した。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・学生が思考を深めるのにつながる教員からの視点を提示したことが（アンケート結果に）反映された。
- ・Zoom を利用したワークを断念し、WG の方針をできるだけ厳しく守る方向性で考えた。しかし、本年度の授業形態を、ただ動画を示し、レポートを回収し、簡単なフィードバックを与えるだけとするのでは教育効果が得られないと考え、徹底した文章でのフィードバックを実践することとした。初年次セミナーでの学びを前提としたレポートの書き方、参考となるレポートの紹介、動画を事前視聴して感じた自分自身の疑問点や切り口、さらには自身の見解の提示、自身のプロジェクトの紹介等を行った。文字による徹底フィードバックは、自由記述では肯定的意見が多く、正直なところ予想外であった。否定的意見もあったが、どのような挑戦をしても賛否両論あって当然であり、特に問題視すべき指摘はなかったように思っている。
- ・manaba 上の意見交換と、zoom 上の意見交換を自由に選択できるようにした。毎回、提出物の相互閲覧を可とした上で、何人かの学生レポートを教員のコメント付きで全受講生に公開した。
- ・全期間オンデマンド授業で行われたため、連絡等は主に manaba でとっていた。このため指導が不十分であったと思う学生も多いと思われる。
- ・最初の方はレポートに何を書いたらいいかわからなかったという意見もあったので、もう少し丁寧に書き方を指示したい。
- ・学生側で取り組んだ自主的な考察の成果を発表する機会があると良い。
- ・別途「地域」に関する資料を提供して、学生に自ら調べたいことを推奨したい。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・動画が長いという声があった。要点の整理やレジュメ、補足説明が欲しいという声があった（個人的には学生が自分で作成するものではないかと考えている）。
- ・「動画時間が長いものがあった」や、「聞きにくいものがあった」など、動画の内容よりは物理的な質に対する不満も目立った。
- ・要点の整理や補足説明が必要か、少し考慮したい。
- ・学生同士の討論の場が必要だろう。
- ・大人数の授業であるが、学生の交流等、担当者レベルで対応できるところを工夫したい。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・座学だけで終わってしまいそうなので、様々な制約があるかもしれないが、学外体験を試行してみたい。
- ・秀をクラスで 20%程度に抑えるという全学的方針は、教員自身の工夫で克服できない問題で、再検討すべきである。
- ・ループリックを事前に学生に示しつつ、意図的に秀の割合を調整することを強いられた現場の教員の苦しさ、そして努力しても 89 点までしか基本的には望めない学生の気持ちを考える必要がある。
- ・manaba のプロジェクトを使い慣れてなかったことが原因で、学生を混乱させた部分もあるので、今後は気をつけたい。

体育・健康科学実習

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・昨年度と比較して、受講生が取り組む授業時間外学習時間が増えた。コロナ禍、運動習慣の獲得の意義を上手く伝えることが出来たように思える。

2. 受講生が実感する学習成果

- ・コロナ禍対面授業を学生にとっては十分満足のいくスタイルでは無かったと思うが、遠隔授業でも工夫を凝らしたコンテンツで展開できたように思える。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・これまで同様、学生らに主体的な学びを提供できていたように思える。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・対面授業回増加を臨む声が多かった。一方、遠隔授業のコンテンツに対する満足度が高かった声も多かった。今後も、遠隔授業回のコンテンツや運営の工夫は、新しいアイデアを出していきたい。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・授業改善のために、今後も積極的に学生へ協力を呼び掛けていきたい。

英語

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・シラバスは1時間程度と書いて、多くの学生がそれに応えていました。
- ・昨年、課題量が多いという意見が多く、見直したが、そのため平均時間が低くなっていた。
- ・30分以上1時間未満と1時間以上1時間30分未満が一番多いが、1時間30分以上2時間未満の受講生が極端に少ないのが気になる。
- ・授業で扱った箇所について、各自で更に調べてコメントを作成する時間を設定すると学習時間も増えると思う。
- ・ I will continue to impress upon them the benefits of practice and independently honing their skills.
- ・ I will reassess the amount of homework assigned and look for ways to encourage more independent study.
- ・小テストなども検討したい。
- ・ I believe that 90 minutes per week is quite reasonable for these students. In-class time was utilized more for cooperative activities, while report writing and survey activities were done outside of class time.
- ・毎日コンスタントに英語に接するような課題を出す。
- ・問題意識をもたせて自分で探求し独創的な考えをもてるように導いていけたらと思う。
- ・授業で扱った箇所について、各自で更に調べてコメントを作成する時間を設定すると学習時間も増えると思う。
- ・掲示板は学生と教員相互の交流（質疑応答）がもっと活発に行われればよいと考える。今期は学生が演習をし、教員が評価・講評をするところで終わった。勉強法の悩みや相談なども聞けたら良いと思う。
- ・学部の Glexa という LMS を用いて、往復型宿題を作成して、それぞれのメンバーの授業時間外学習を確認する。
- ・「講義の課題量がとても多く、本当に負担だった」とのコメントもあったが、このような学生には、個別にやり方を指導するなど措置が必要。
- ・ Increase the weekly reading load for IA students by more reading from textbook or online reading services.
- ・ Improved reading assignment and revision questions must be introduced to help motivation and provide more of a challenge .

2. 受講生が実感する学習成果

- ・プレゼンテーションは、全てのメンバーが平等に作業に関わり力量を伸ばすというところの難しさを実感した。
- ・グループで話し合い（Zoom のブレイクアウト）を通して、様々な考え方を共有できた。
- ・ I feel that the students get a good deal of satisfaction from delivering a good presentation.
- ・ Students felt they could develop reading skills and solve problems. However several students did want explanations in Japanese.
- ・ Students felt they could communicate in English, learn about native pronunciation and develop creative writing skills.
- ・総合教材であったため、英語の 4 技能をそれぞれ取り扱うことが出来た。出席率もおおむねよく、DVD 教材も一度取り扱って好評であった。
- ・最終的に学術的なプレゼンテーションを行う、という、学習成果を実感しやすい科目でもあり、それを達成できたと感じたようだ。
- ・ Most students enjoyed the use and amount of group work in the class. As well as the chance the help each other and discuss the meaning of the readings.
- ・グループメンバーが同じ土俵でディスカッションできるように、グループ分けにも工夫が必要と感じた。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・予習を心掛けるように指導した。またレポート課題も与えた。
- ・学術プレゼンテーションの各側面について、問題点等をペアで考えてみる課題を行い、それを踏まえて自分で書いてみる、作成してみる、などの活動を促した。その趣旨は伝わったようだ。
- ・ Students seemed to enjoy the style of the class, however some would have preferred face to face rather than being almost entirely online.
- ・各グループで、プレゼンテーションのトピックを選んで、自主的に取り組んでいたようである。
- ・オンラインの授業で Zoom のブレイクアウトを利用した。隔週で対面授業を実施した際、接近しなくてはならない活動にならないよう注意したが、語学科目でコミュニケーションを控えるのは非常に違和感があり、授業方法に非常に悩んだ。
- ・ Zoom での遠隔となったため、できるだけコミュニケーションの機会を多く持つことにした。また受講者の要望に応じて副教材を準備した。
- ・ I am very satisfied with this result. I think it shows that the focus of the classes is clear to the students and they are all understanding the purpose of each class.
- ・ I will continue to try to convey a clear purpose for everything I teach.
- ・目的を明確に自ら持つように促す工夫と、有用感を得させる必要生を感じる。やれるところから工夫していきたい。

- ・様々な制限がある中、オンラインではツールを利用しながら工夫し、対面授業では短時間のペアワークを中心に可能な事を行った。学生同士、顔を合わせるだけでも喜んでいただたため、大変気を使ったが、実施して良かった。
- ・授業でのトピックについて、更に幅広い思考展開ができるようにしたい。
- ・ While this was an online course, I made a lot of effort to allow extra time for discussion and collaboration between the students.
- ・ I strongly believe that it is important to allow students adequate time to discuss and share ideas with their peers in class.
- ・ The introduction more challenging, but interesting/relatable reading activities to encourage those students who lack motivation.
- ・「受講者に発言の機会を与えていた」とのコメントにもあるように、なるべく、講義中に考えさせることを主眼にしたが、さらに工夫していきたい。
- ・パンデミックが終わったら、能動的学習の原理を効果的に適用することを検討する。
- ・洋楽を使ったり、海外生活の失敗談などは、憧れで終わるのではなく、海外への好奇心を持って実際に行動してほしい、という気持ちで話している。
- ・ To encourage smoother discussion during speaking activities I aim to get students to prepare their answers to pair-work questions.

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・ Some students seemed to like that everything was explained in English so that they could develop their comprehension. Others did prefer to have some instructions in Japanese.
- ・対面時と遠隔時の内容を明確に分けて運営できたという実感があり、受講生にとってもそれがよい形態だったようだ。
- ・暫く授業をしてなかったせいか、声が小さいとの記述があった。以前は、大きすぎるといわれていたが、声量には注意する必要があると思った。
- ・マスクを着用していたため、声が聞こえにくいという意見があった。
- ・背伸びせず基本から学んで、簡単に英語は使いこなせるということが伝えられたと思う。そのためには練習という努力も伴うことも。
- ・この2年間で、対面時に行ったほうが良い課題と、遠隔時に行ったほうが良い課題が分かりました。今後、対面授業中心に切り替わっても、授業時に行う課題と宿題として行う課題、という分け方で応用したいと思います。
- ・「英語の全訳しかしないため文法など新しいことは学べなかった。」との「コメントもあり、文法をさらに取り入れていきたい。
- ・ A better use of online tools to increase the variety and challenge of the class overall. Increased emphasis on reading activities done for pleasure outside of the classroom.
- ・ While the overall response was good, a few students commented that they were like more time to complete tasks in class and revise their work. Of course I will keep this in mind for

future courses.

- ・受講生の名前を可能が限り覚えたい。平等に指名できるように。
- ・設置されているマイクが充電されていなかったり、消毒されているか不安なため、マイクを購入し自分専用のマイクを準備する予定。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・学生は対面授業を好む傾向が強かったため、このたびの授業では対面授業の効果をあげることができた。
- ・オンライン授業にも備えて、manabaの掲示板やコンテンツ教材を充実させたが、なかなか既読にならない学生もおり、ダウンロードを催促することもしばしばあった。学生の熱意には温度差を感じた。
- ・「zoom上で指名されて回答しなくてはいけなく、図書館などの声を発してはいけない場所での受講を制限された点。」との指摘から、これに対しては、前もって指導することが必要と感じた。
- ・前期はすべて対面授業で実施したが、受講生がすべて前年度は遠隔授業であったために、大学生になった実感がないとこぼしていたのは、気の毒を感じた。
- ・Zoomで授業する際は学生側にもカメラを常に付けさせて、できるだけ発言させたほうが、学生の受講態度がよく、学生同士の関係も良好になると感じた。
- ・Based on my own personal surveys to the students, it seems there are a large number of students who would prefer to study online if given a choice.
- ・Zoomによるオンライン授業で、Zoomを付けるのみで、その場にはいない事がある。（ブレイクアウトに参加していないこと、呼びかけに応じないため分かった）。
- ・最初は遠隔授業をやっていましたが、学生の皆さんより、他の学生の発表のときの不審な行為とかが報告されました。（はっきりとそう言ったわけではありませんが。）音声がでない、画面が映らないなど、発表のときにいろいろな問題が発生し、学生の皆さんが誠実に発表しているのか疑いたくなることがありました。そんなわけで途中から対面に切り替えました。
- ・Many students expressed a preference for making video rather than live presentations. While I think both skills are needed, video presenting seems a modern skill that should be developed.
- ・I hope to incorporate some online techniques into the classroom, particularly video recorded presentations.
- ・授業の振り返りの内容を提出させて出席にする、その場でクイズ付のレスポンスに解答してもらう。
- ・お互いに学びあい成長していける十分な素養があるという実感を持って頑張れるように指導できたらと思う。
- ・In future terms I hope that this course returns to a normal teaching situation and I can spend

more time working one on one with individual students.

- Use what I have learnt in this class to make improvements and form a more motivating environment for the students. Adjustment and improvement of chapter quizzes to more accurately measure the student's understanding and improvement.
- もっと双方向的学習とコンピューター学習手法を使用する。
- 受講者名簿の順番が専攻別に固まっていなかった。同じ専攻の者たちは語学のクラスで仲間になりやすい。グループワークもしやすいので、名簿順は専攻ごとにまとめていただければ幸いである。
- I have found Writing From Within to be a good overall book, although I would be interested in using texts with online practice and some audio and visual content, and more guidance for scoring students' work.
- I would like to keep explanations and examples as short as possible, so ensure there are no difficulties with understanding.

初修外国語

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- 約 80%の学生がかなりの時間をかけている。提出課題を丹念に課したためであると思われる。
- これまでより授業外学修時間が増えている。課ごとにドリルを複数用意し、時間制限・ランダム表示の設定をしたうえで、何度でも提出できるようにした結果だと思われる。
- 文法に集中する講座で、覚える量も多いので、すくなくとも 1 時間の学習が必要だと思います。
- 質問、分からないことについての時間をこれ以上入れたいと思います。学生にもう少し積極的に講座の内容について考えてほしいです。
- manaba を活用した e-learning システムをより充実させていきたい。

2. 受講生が実感する学習成果：

- 文法に集中する講座なので筆記練習問題が多いですが口頭の練習もしています。これからできるだけもっと日常会話で使えるフランス語の練習をしたいと思います。
- 学習成果を受講者が自ら振り返ることのできるような機会を工夫したい。
- ポートフォリオやチェックリストの活用をより充実させていきたい。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- すべて対面授業を行い、授業中にペアワークやグループワークを短い時間でも毎回取り入れた。また教室を廻って、学生が気軽に質問できる雰囲気づくりに努めた。
- 学生にとって関心のある内容の授業では学生の自主性も高まっている。

- ・もう少し学生の意見を聞ける時間を入れたいと思います。
- ・アクティブラーニング的な要素を増やすなどの工夫を検討したい。
- ・引き続き、学生にとって関心を持ちそうな内容（時事的なことも含めて）を取り入れていく。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・manaba にドリルを設定し、授業外の課題をこれまでよりかなり多くしたものの、満足度が落ちなかったことに安堵している。なお、ペアワークやアプリの活用について高く評価するコメントが多かった。
- ・ネイティブならではの語学・文化については評価が高いことが伺われた。
- ・文法が多いが、会話、文化のバランスもあり、学生を積極的に参加させられたでしょう。
- ・対話やフィードバックを充実させるよう工夫したい。
- ・今度具体的なロールプレイを入れたいと思います。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・すべて対面授業で行ったが、体調不良等の理由で出席できない学生のために、ZOOM 配信も同時に行った。・毎回、小テストや課題があったため、勉強になったと答えてくれた学生が多かった。・課題を毎回添削してすぐに返してもらったことが学習効果に役立ったと答えた学生が多かった。
- ・100%オンラインの言語講座なのに、思ったよりスムーズな流れで行えたと思います。会話はブレイクルームを使って、学生が真剣に声出して質問と答を交換していただきました。一般的に学生が真面目に勉強していました。
- ・フランスの地方についても教えたいと思います。

教養教育科目

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・「地域防災」に魅力を感じることができる授業内容をより提供したい。
- ・参考文献などの紹介を増やす。
- ・インターネット上で閲覧可能で質の高いコンテンツへのアクセス方法を提示したい。
- ・新書版の読み物等は全員に読んでもらえるとよいと思うので勧めたい。
- ・毎回の授業で復習すべき重要な箇所や練習問題などの課題を出していたが、実際に取り組んだかのチェックはしていなかった。次年度以降の授業で課題の取り組み状況を把握することを検討したい。
- ・最終的な課題レポートも課しているため、学習はされていたが、興味を含ませる講義を行い、自主学習時間を増やしていく。
- ・授業終了前に、復習すべき点は何か、次週に向けて予習しておくことが望ましい点は何か、アナウンスを行う。

- ・毎回、練習問題を出して、次回までの課題とする。
- ・バランスを考えながら、課題を与えて自習時間を確保させる必要がある。
- ・授業前に毎時間、次の授業内容がわかるような予習課題(プリント)を出すことを恒例にして、予習を促す。
- ・予習復習といった形の決まったものではなく、ニュース等で鹿児島県の自然に関する情報があった時に注目するように呼び掛けたい。
- ・毎回授業アンケートを課しているが、複数回レポートを課すことで、自習時間を増やしたい。
- ・もう少し授業時間外の学習時間を増やすように、レポート課題の回数を増やしたり、課題内容に工夫を加えるなどの取り組みを行いたい。
- ・時間外学習をしっかりとやるように授業で促す必要があると思われる。また、課題は出していたが、短い時間で終わるものだったため、学習時間が少なくなったと考えられる。今後は課題の内容も改善したい。
- ・自分のスキル向上をより意識させるよう工夫したい。
- ・レポートも課しているので、時間外学習がゼロとは考えられない。しかし現状では負担が軽めのようなので、小テスト以外のテストも導入し、時間外の学習を促したい。
- ・授業ごとの参考図書、文献の紹介も検討したい。
- ・対面型で対話方式がよい。同じ解答のない演習・実験を取り入れて課題として考えさせる方がよい。

2. 受講生が実感する学習成果

- ・より魅力ある授業内容を提供したい。大学近郊が調査対象であったが、来年度から島嶼部で行いたい思いがあり、実現できるか検討中である。
- ・動画資料に興味を示す学生が多いようなのでいっそう充実させたい。
- ・科目内の各教員の強みを生かした興味あるテーマを今後も継続して行う。
- ・身近な現象との関わり、ニュースになったトピックを、もう少し取り入れる。
- ・授業のベースとなる数学のレベルが学生により異なるため、ついていくことができていない学生がいる。授業の中で必要に応じて高校数学の復習を行う。また高校で必要部分を履修しなかった学生に対しては、授業時間外に資料を見てもらうなどで対応したい。
- ・多数の意見のみで満足せず、少数の意見等もよく検討した上で、今後のより一層の授業改善に努めたい。
- ・鹿児島県の自然について、トピック等も織り交ぜていきたい。
- ・Word などでも web アプリはデスクトップアプリに比較して機能に制約がある。しかし、学生はそれらを区別していないため、机間指導が必要である。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・オンデマンド形式でも可能な方法を検討する。

- ・小テストの機構を使ったり授業中のレスポンドで一定の意見交換は可能と思われる。
- ・授業中に物理現象を説明するだけでなく、それを理解するための練習問題に積極的に取り組んだことがよかったのではないかと考えられた。
- ・テーマにもいれているように考えることを重要としているため、講義方法の工夫を担当教員間で話し合いながら今後も進めていく。
- ・授業時間で、間を作って改善する。
- ・引き続き、口頭の説明と立体化学の動画を見せることを組み合わせることで、立体化学と農学の専門領域との関りの例を示しながら、授業を進め、レポートについても具体的な例を挙げて課題を課すこととしたい。
- ・高校レベルの内容の振り返りを含む「基礎科目」なので、授業内容が多くどうしても詰め込み授業になりがちになってしまう。授業を受けたいうえで自分で考えたり、積極的に調べなければ答えが出ないような小テストやミニレポート課題を課すことで、自主的な考察への取り組みが高まると思われる。
- ・キレイな図表の作成に努めたい。
- ・講師全員と共有し、問題提起をしながら講義を進めるようにしたい。
- ・引き続き、グループディスカッションと意見の共有を行いたい。
- ・小テストによる理解の確認と理解のための自主的な調査を行ってもらった。ただし、講義の性質上、実習的要素が強いので、自主的な考察、取り組みには背う役があると思う。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・学生のレベルに合わせて個別に対応していきたい。
- ・学生のプレゼンテーションにおいて予定時間をオーバーしてしまったので、今後は時間配分等を調整したい。
- ・講義内容についてのインフォメーションは事前の講義などでも行っていく。ディスカッション前の注意点などについては、講義内に含めていくこととする。
- ・宿題の解説時間をできるだけ作りたい。
- ・配布資料への不満点は改善を行う。授業はできるだけ対面で行っていききたいが、ハイブリッドの評判が良いため、ハイブリッド授業でも成績が変わらなければ今後活用していきたい。
- ・講義終了時間をオーバーしてしまうことがあることが指摘されていたので、終了時間の徹底には注意したい。
- ・最後の授業で、遠隔だったので間に5分間程休憩を入れてみたが、リフレッシュできて効果的だったという意見があった。今後も取り入れてみたい。
- ・学生のプレゼンテーションにおいて予定時間をオーバーしてしまったので、今後は時間配分等を調整したい。
- ・スクリーンが見にくかったという意見が複数あったので、次年度は、どの位置からでも見えるように改善する。また、演習を事前に実施させておくなどして、講義中の説明を最低

限で済むように対策を講じたい。レポートのフィードバックも検討する。

- ・ 席間隔を詰めて教卓に近づく、あらかじめ Windows の利用を強調、両者に事情を説明する。パソコン教室の PC と同一の機器を教員に配布する。
- ・ 機器の不具合に関する早急の対応は、各教員がさらに積極的に取り組む必要がある（担当事務員への相談等）。
- ・ オンラインのインフラの質の充実が望まれる。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・ 同様の授業「防災フィールドワーク」で、グループ間交流を行っており、人的交流の不満が生まれないう工夫したい。
- ・ 初回授業でやる気のある学生の履修を促すためにより丁寧な授業の説明を心がける。
- ・ シラバスにより詳細な授業目標を記載する。
- ・ 事前に中断時間があることを説明しておく。
- ・ 受講生の PC およびネット環境を考慮して、適宜、遠隔授業を対応したい。
- ・ 授業型式は概ね評価を得られていると思われます。配布物などに関してはできるだけ統一感を出したいです。
- ・ オムニバス形式なので、各担当教員の裁量で授業形式等を統一しなかったが、次年度は担当教員全員で、事前に話し合っただけ統一し、また、今年度のアンケート結果の共有を図って自主的な予習復習をしたくなるような授業形式を検討したい。
- ・ 講義内容はもちろんのこと、話し方なども含め、そのプレゼン方法についても、今後一層の工夫を模索したい。
- ・ 授業スタイルだけ表層的に工夫しているのではないことを訴えたい。教育コンテンツの開発、教材づくりにも相当の時間をかけており、徹底した準備をしている。
- ・ 複数教員による共同実施体制としており、相互に教育方法やスタイルについて学びあう場となっている。この意味では、他に類を見ないディープな FD 活動を行なっているとも言える。
- ・ 全学部に引きつけた内容にしているが、もっと理工系の学生向けの内容を取り入れたい。
- ・ 授業の中での改善は難しいかもしれないが、エクセルやパワーポイントを 2 年でも扱える機会があれば良いと考えます。
- ・ アンケートの周知を徹底する。
- ・ 遠隔の学生には TA を活用し積極的な声かけを行う。
- ・ IT スキルが低い学生でクラスを作れるほどの人数でもないので、今までと同様に初回の IT スキルのアンケートをもとに TA と教員でサポートする。
- ・ 回答の中に、桜ヶ丘時間だった講義があったと指摘があり、そこは改善点。
- ・ 遠隔では授業内だけではなく授業外でのフォローが大事だと感じた。

日本語・日本事情科目

1. 受講生が取り組む授業時間外学習の週平均時間

- ・1単位である本授業の予復習の負担が大きい学生がいる点、改善を図りたい。
- ・週平均時間が30分未満から4時間以上まで各1時間帯1名ずつと分散していたのは、受講生の日本語能力の差によるものと思われる。日本語能力差に十分配慮しながら対応する。
- ・授業時間外に行う課題の難易度や分量を精査するとともに、日本語力の低い学生への対応を検討したい。

2. 受講生が実感する学習成果

- ・最終課題の内容からも、受講生が授業の目的を理解し、それを身に着けるための取り組みを行ったことがわかる。
- ・肯定的な評価が得られたが、受講生の関心に合わせてテーマ選びをしたことにより学習の動機付けが図られたものと思う。
- ・肯定的な評価が得られた一方で、否定する評価があった。大多数の受講生は彼らの関心に合わせたテーマを学習することにより学習の動機付けが図られた。否定評価をした受講生は「自分の努力と評価のずれが大きかった」と述べているが、評価基準の説明が不足したものと思われる。
- ・成績評価基準などの説明を従来よりも多数行う。
- ・受講生の関心に合わせたテーマ選びを続けるなどして、学習成果がより得られるようにする。

3. 授業時間中における講義内容に対する自主的な考察・取り組み

- ・講義への参加にあたって自主的な考察や積極的な参加態度が重要であると学習者が感じたものと解釈できる。
- ・少人数クラスであったため、Zoom上の個人指名やグループディスカッションでも意見の掘り下げ等の促しを頻繁に行ったことが、自主的な考察などに繋がったのではないかと思う。
- ・促しの工夫を行いながら、引き続き前期のやり方で考察を促していきたい。
- ・前回の授業の振り返り、課題に対するフィードバックを通して、自主的な考察、取り組みにつなげたい。
- ・オンライン授業であってもリアルタイムに意見表明や交換ができるよう、進め方を一層工夫する。

4. 授業に対する総合的評価や受講生から指摘された点

- ・コメントシートの書き方等、アカデミックジャパニーズの基本的内容を学習できたとのコメント多くみられた。

- ・コメントシートやレジユメの書き方などといった、授業で取り扱った内容や、毎回の課題へのフィードバックが役に立ったという感想が見られた。
- ・「日本の現状に加え友人の国の現状も学べた」、「長いレポートを書けるようになった」、「レポートをフィードバックしてくれる」、「ニュースの聴解を通してリスニングの練習になった」、といったプラスの評価がある一方、宿題（小レポート）が多すぎるという指摘があった。
- ・大学生活における書くことの必要性を繰り返し説明するなどして、指導に努める。
- ・受講生の関心のあるテーマをもとに達成感が得られる授業への工夫を続ける。

5. 授業一般に関するもの（授業内容、受講生の履修態度、遠隔授業、等）

- ・今後ハイフレックスや対面授業の形式となっても、オンラインの良さを活かしながら、個々の学生に配慮した授業が進められるよう改善に努めたい。
- ・Zoomによる遠隔授業でも6名という少人数クラスの場合、カメラをOFFにしても受講生の管理がしやすく、受講生はおおよそ真剣に参加しているということが認識できた。
- ・ZoomのカメラOFF状態で、指名したりしても反応しなかった場合減点するとしたので、前年度より多くの受講生が授業内容に取り組んでいた。これを続けながら、受講生にとってより満足感の得られる授業の創出に努める。
- ・対面授業になっても受講生への目配りなどを十分行いながら、満足感の得られる授業の創出に努める。
- ・グループ活動を円滑に進めるためのグループ内での関係形成が、遠隔授業では育ちにくい。今後、どのように改善できるか、検討していきたい。

掲載日：令和4年3月24日

文責：鹿児島大学共通教育センター

FD委員会委員長 今井 裕